

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870400417
法人名	医療法人青峰会
事業所名	アクティブライフ松柏
所在地	愛媛県八幡浜市松柏甲728-1
自己評価作成日	平成28年11月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年11月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ間が仲がよく協力して入居者の状況に応じ毎日の援助にあたっている ・医師、看護師との連携し日常生活援助やターミナルケアにも取り組んでいる。 ・毎日10時には体操をして皆でお茶を飲んだりゆっくりと交流する時間をとっている。 ・毎月行事をしたり庭に花や野菜を栽培し季節を感じ取れるよう支援している。
--

<p>玄関を入った所に神棚が設けてあり、通る度に手を合わせる利用者がいる。居間から中庭のテラスに出られるようになっており、ピオラを植えたプランターが配されていた。夏場にはゴーヤやトマト、キュウリを育てて料理に利用している。居間には大きな日めくりのカレンダーがあり、壁には行事の写真や季節の飾り付けをしている。訪問調査時、午前、午後にお茶の時間を設け、ことわざ遊びや今日の新聞から地域話題を話したり、体操を行っていた。トイレの入り口のレールの段差は、改修して改善されていた。</p> <p>自宅のことを大切に思う利用者には、買い物帰りに自宅に立ち寄ってみる機会を作る等して支援している。趣味の三味線の仲間に来てもらい、演奏会をしてもらうような機会を作り、本人との関係を継続できるよう支援している。</p>

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 アクティブライフ松柏

(ユニット名) きんかん

記入者(管理者)

氏名 山崎奈美

評価完了日

H28年11月1日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「ゆっくり・楽しく・いつも一緒に」という部分は実践につなげている。入居者の高齢化と重度化、スタッフの減少により、地域と関わる事が少なくなり、理念に沿った支援が難しくなっている。	
			(外部評価) 開設時からの理念を居間や事務所に掲示しており、職員間で「ゆっくり・楽しく・いつも一緒に」を合言葉に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域行事や防災訓練に参加したり、中学生やボランティアとの交流をしたりしている。ホームでも夕涼み会を開催したくさんの来場者があり地域とのつながりにもなっている。何か行事がある時は交流ができるが、日常的には難しいこともある。	
			(外部評価) 町内会に加入し、回覧板で地域情報を得ている。事業所前にある中学校の福祉体験学習を受け入れている。中学校の運動会の折には、気兼ねなく見学ができるよう出入りしやすい場所にテントを設置してくれている。地区の「食推進委員会」の独居老人にお寿司を届ける取り組みの折には、事業所にもお寿司を届けてくれる。敬老会開催時に保育園児が来てくれて、歌や踊りを見せてくれており、利用者がたいへん喜ばれることから、クリスマス会時にも交流できるよう調整中であった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 中学生の福祉体験で認知症や支援の方法について話している。夕涼み会やボランティア訪問時に入居者の様子を知ってもらったりしている。地域の方から相談があれば共に考えようと思っはいるが積極的に発信は出来ていない。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 会議ではホーム状況や支援についてその都度報告内容を考えて行い助言等頂いている。昨年の避難訓練の見学及び意見交換を会議で行った際は、テラスから外に向けてスロープの設置を進められ設置する事ができた。</p> <p>(外部評価) 会議には、公民館長や婦人会の方、家族代表者1名が参加している。又、市内グループホームと相互参加して情報交換を行っている。会議を避難訓練や夕涼み会と併せて行うこともある。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 事故や入退居の連絡など、必要に応じて連絡を取っている。運営推進会議やさわやか相談員の訪問を通じ実情もわかっていると思う。地域密着型サービス会議にも参加し情報の共有している。相談すれば一緒に考えてくださる関係は築けていると思う。</p> <p>(外部評価) 市と包括支援センター担当者が交替で運営推進会議に必ず参加してくれている。さわやか相談員の訪問が月1回あり、気付いたことを教えてくれたり、利用者の話をじっくり聞いてくれている。3ヶ月に1回行われる市内地域密着型サービス事業所連絡会に参加しており、同業者と一緒に勉強したり情報交換を行ったりしている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) スタッフは身体拘束について理解している。一時期、スタッフ数が少なく頻繁に外に出たがる入居者がいた際に玄関の施錠を行っていたこともあったが、居室の変更・見守り強化で施錠を行わぬケアに取り組められるようになった。「まって」「立たないで」など、言葉による拘束にならないように意識し努めたい。</p> <p>(外部評価) 法人内研修時に、身体拘束について勉強している。外に出たい利用者の様子があれば散歩に誘い、しばらく外で過ごし、本人が納得いくように支援している。玄関を開けるとチャイムが鳴る。2階ユニットの階段口には、転落防止用に柵を設置している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待の勉強会に順次参加し職員一人一人が防止に努めている。入居者のあざや内出血があると事故報告書に記入し、原因・対策などその都度話し合っている。言葉遣いや対応の仕方など気をつけていきたい。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 制度について研修やホーム内での勉強会で学んだことのあるスタッフもいれば、異動して間もない職員など全く理解できていないスタッフもいる。研修など機会があれば参加していきたいと思う。制度を利用する入居者がいればホームでも再度確認していきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約に関することは主に施設長が行っている。時間をかけて説明し、質問や疑問にも丁寧に対応しているつもりである。改定なども文章でお知らせし納得して頂いていると思う。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 法人内で家族アンケートを取ったり、家族会を年1回実施し管理者や家族同士の意見交換の場を作ったりしている。入居者からは直接意見や要望を聞いている。家族も面会時にスタッフに話していかれる事もある。その内容は業務日誌やスタッフ会で共有し運営に活かすよう心掛けている。 (外部評価) 家族とのやり取りは日誌に記入し、職員間で共有している。家族には、月1回、手書きの便りと写真を送付している。便りには「健康状態」「活動状況」等の欄を作り、個別で具体的な報告に取り組んでいる。家族会を年1回行っており、半数の参加がある。家族会前には質問等を受けており、それらをもとに説明したり意見交換を行ったりしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回スタッフ会を実施し、ホーム内の意見交換を行っている。年2回スタッフと施設長の2人ずつで面談をする機会も設けている。法人内の他施設長が月1回集まり運営会議を行い意見・情報の共有を行っている。	
			(外部評価) 法人内職員が個別に自己評価を行い、個人目標を立てて取り組む仕組みがある。月1回のスタッフ会で出た意見については、「まずやってみる」ことに取り組んでいる。職員からの意見で業務を行う時間を変更した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 法人として給与面の見直しや処遇改善で正社員の割合が増えたり、育休明けのスタッフが時短勤務が出来たりと働き続けられる環境を整えてくれている。異動希望調査やスタッフと施設長の年2回の面談、入ったばかりのスタッフには1ヶ月おきに面談を行い悩みや意向を聞いたりする仕組みがある。ただ、スタッフの減少により有休やリフレッシュ休暇があるものの思うように取れないのも実状である。	
			(外部評価)	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 1人一研修以上を年のホームの目標に立て業務研修として参加できる機会がある。法人内でも虐待の勉強会や初任者研修も行っており参加しているスタッフもいる。以前に比べるとスタッフ数に余裕がなく外部研修への機会は減ってきている。	
			(外部評価)	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 法人内の他のグループホームとは接遇委員会や安全対策委員会などで交流をもちサービス向上に向け取り組んでいる。市内の他グループホームとも運営推進会議や地域密着型サービス連絡会議、行事等を通じ意見交換や交流などしている。	
			(外部評価)	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前に見学に来ていただいたり面談を行い、少しでも不安なく入居していただけるようにしている。事前の情報はスタッフ間で共有し、落ち着き安心して入居生活ができるようスタッフ全員で声掛けや見守りをしたりしている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 施設長・計画作成担当者が入居者・家族と面談し不安や要望等伺い、より良いケアが提供できるよう努めている。昨年5名の方が入居があったが事前面談を行う事でスムーズな入居につながり家族との信頼関係も作れていると思う。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) グループホーム入居希望という事で面談し入居が適しているか見極めている。状態が安定していなかったり医療への依存度が高いなどの場合は医療を優先してもらうなど、入居申込時に他のサービスを紹介することもある。入居後も状況に応じデイケアを利用するか検討したこともある。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 洗濯物たたみやお膳拭き、エプロン干し等出来る事をして頂いているが、入居者の重度化によりなかなか難しくなっている。入居者同士の交流を図るため、レクを取り入れたりスタッフが間に入り会話を進めたりしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 毎月本人の健康状態や活動を記入し家族へ写真つきで様子報告や、2ヶ月に1度松柏新聞を発行しホーム状況などを報告している。このほかにも病院受診等何かあったら家族にも協力していただいている。夕涼み会や家族会にも参加していただき一緒に楽しい時間を過ごして頂いたりしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) それぞれの地元の話をしたり、外出した際には自宅近くを通ったり馴染みの場所の話をしたりと思い出せるよう関わっている。家族や知人がいつでも面会に来てもらえる環境作りもしている。電話介助も行い面会に来てもらったり、知人にボランティアで演奏会してもらったりとつながりの支援もしている。 (外部評価) 自宅のことを大切に思う利用者には、買い物帰りに自宅に立ち寄ってみる機会を作る等して支援している。家族と一緒に自宅に戻り、食事するような方もいる。趣味の三味線の仲間に来てもらい、演奏会をしてもらうような機会を作り、本人との関係を継続できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者同士の関係を見極め、テーブル席での席順など配慮や、スタッフも間に入り穏やかに交流がもてるようしている。レクや作業を一緒に行い、交流の機会を持てるようしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居後は積極的に関わることはないが相談などがあれば応じていくつもりはある。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 些細な会話の中からでも本人の好みや意向など聞き取るようにしている。現在発語が困難な方でも以前はお元気でよく話されていた内容から本人の希望を汲み取り支援に活かしている。集団生活なので十分に意向に添えない場合もある。	
			(外部評価) センター方式をもとにしたアセスメントシートに沿って情報を集め、利用者の好みや意向の把握に取り組んでおり、個々の出来る事、得意な事を行えるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式のアセスメントシートを利用し、入居時のアセスメントを行い本人の暮らしを把握出来るようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 普段の生活の中での変化を見逃さない様に心がけ、一日の様子でいつもと違った様子などあれば個人記録や業務日誌に記入し、申し送りなどでスタッフ間で情報共有に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 計画作成担当者を中心に事前に確認した本人や家族の意向、主治医・看護師のアドバイスを基に、ケアカンファレンスを行い介護計画を作成している。状態の変化などあればその都度見直しや変更も行っている。</p> <p>(外部評価) 家族の要望や健康状態等を踏まえて、ケアカンファレンスを行い、介護計画を作成している。利用者個別の介護日誌に計画内容を記入し、毎日モニタリングを行っている。3ヶ月ごとに評価して見直しを行っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個々の様子や変わった事など介護記録に残し、日々の申し送りや業務日誌などで情報の共有が出来ている。カンファレンスではその時に必要な支援を話し合いケアの提供にいかしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 個々の状況に応じて受診同行や衣替え、買い物外出などなるべく支援して行きたいが、入居者の重度化やスタッフ数に余裕がなく、対応が難しくなっている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地区の公民館や婦人会とのつながり、地域行事への参加やボランティアの交流、近隣の学校との交流や運動会の見学など、今の入居者の状況・スタッフ数で出来る支援を行っている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 主治医の来所がほぼ毎日あり必要に応じ相談にのってもらったり診察してもらったりしている。緊急時にも連絡し対応してもらっている。家族が主治医との面談の希望があれば機会を作っている。日常の様子も毎日FAXで主治医に報告している。かかりつけ以外の受診も出来るよう支援している。</p> <p>(外部評価) 利用者は全員、協力医が主治医となっている。毎日、主治医が往診に来ているため、職員は、気になること等があれば直接相談をしている。家族から「ADLが落ちたのではないかと相談があった時には、主治医と直接話す場を持った。訪問看護ステーション看護師と協力医の看護師が連携して週1回訪問がある。専門医受診は家族が付き添うが、都合によっては職員が介護タクシーを利用して同行している。必要に応じて歯科の往診も受けられる。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 主治医の病院の看護師と、医療連携をとっている看護師がそれぞれ週1回ずつ訪問し相談や報告を行っている。適切な助言や指示を受け連携が取れている。毎日の入居者の様子や気づいた事などドクター報告にて看護師にもFAXしている。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) グループ内の病院は看護師や家族から、市立病院などになると家族から情報を聞いている。入院時の状態を書いて情報提供している。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 入所時に終末期の希望を聞いている。重度化や終末期が近づいてきたと思われる段階で再度本人や家族、主治医や看護師と話し合い希望や意向を確認している。スタッフや主治医や看護師などと連携し看取りに向けてチームで支援に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 看取り支援については、入居時と状態変化時に「意向確認書」で確認を行っている。9月に看取りを支援した際には、「チューブは嫌」という本人の思いのもと、家族、主治医、看護師、医療連携看護師と方針を共有して支援した。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 昨年度はホームにて看護師による急変時の対応の講習会を行った。救命救急講習を受けに行ったスタッフもいるが、参加できていないスタッフもあり、全員が定期的に参加する事は今後の課題でもある。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練は毎年2回実施している。運営推進会議で見てもらいホーム状況を知ってもらおうと共に、災害時の協力をお願いしている。隣の家の方にも避難訓練を手伝ってもらったこともある。	
			(外部評価) 5月の避難訓練時には、職員が利用者役になり、シーツを使って外階段から利用者を避難させる訓練を行った。10月には、1階ユニットで浴室の窓から避難する訓練を行ったが、利用者の状態により、避難誘導に課題が残ったようだ。近所の方に避難訓練を手伝ってもらったことがあり、「何をしたいかわからない」「声が聞こえない」と意見があった。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 接遇委員会を中心に目標を作り、プライバシーを損ねないような一人一人尊重した対応をするよう心掛けている。入居者からみると不十分であったり、スタッフによっても配慮が十分でない事もあるかもしれない。	さらに、職員の利用者への言葉かけや対応については、事業所内でも定期的に振り返ったり、点検するような機会を作ってはどうか。
			(外部評価) 法人の接遇委員会で得た情報を共有している。トイレ誘導はそっと声をかけ行っており、トイレの戸は閉め忘れないように気を付けている。利用者の呼び方については、家族の呼び方に合わせる等、「馴染みの呼び方」にしている。職員は親しみのある言葉がけに努めているが、利用者や家族の立場から視ると配慮が必要と感じるような場面が見られる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) おやつ時の飲み物やお菓子、何がしたいか？など、生活の中で自己決定が出来るような声かけをしているが、忙しい時には難しいこともある。自己決定ができない入居者に対しては表情等から思いを受け止め対応している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一日の生活の流れはあるが本人の希望や体調に合わせて休んでもらったり、一人一人のペースで活動の支援をしたりしている。スタッフが少ない時や日常業務の忙しい時には希望に添えない時もある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 2ヶ月に1回出張の散髪に来てもらっている。入浴や外出時等は好きな服を選んでもらったり、身だしなみには気を配っている	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 絹さやの筋取りやモヤシの根切り、お膳拭き等出来る事を手伝って頂いてるが、最近は重度化してきてできる方、していただける方が減っており、スタッフが提供している事が多い。誕生日や行事のときなどは季節感を感じられたり好きなメニューを提供したりしている。 (外部評価) 夕食の主菜は業者から届く。他の食材は配達してもらっている。朝食にパン食を好む方がおり、週2~3回採り入れている。メニューや利用者に合わせてミキサー、きざみ、とろみにする等して対応している。誕生日には利用者の好きなメニューでお祝いしている。天気の良い日には、テラスや玄関前で昼食を楽しむことがある。今年は中庭でゴーヤを育て、みなでゴーヤ茶を飲んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) その方に合わせてトロミをつけたりミキサー食や刻みなど食事形態や、食べやすい器の工夫などしている。食事量や水分量は記録し把握している。水分量が少ない方は好みの飲み物を提供したりしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後声掛け・誘導・介助と個々に対応した口腔ケアを行っている。定期的に義歯の消毒も行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 声掛けや誘導、介助をしたりとできるだけトイレに座ってもらうよう心掛けている。排泄チェック表を利用し排尿パターンを把握しケアに反映している。眠気があり立位が不安定で危険な時は自室にてパット交換など行う時もある。	
			(外部評価) 利用者が必要時に職員を呼べるように、トイレ内にブザーを付けている。又、夜間居室でポータブルトイレを使用する方については、必要時に職員を呼べるように近くに鈴を用意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎日体操や腹部マッサージなど体を動かしてもらっている。水分摂取量が少ない時は声掛けたり、野菜を多く取るようしているが、下剤に頼っている方も多い。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 基本的には3日に1回入浴していただいている。気分や体調、個々の状態により柔軟な対応をしている。午前か午後かはなるべく希望に添えるよう提供している。	
			(外部評価) 利用者個々に午前か午後か希望を聞き、入浴を支援している。利用者の中には希望でシャワー浴のみ行うような方もいる。入浴したくない利用者は、気分によるということがわかり、時間を置いて何度か声をかけ支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 本人の意思を尊重しそれぞれ入居者のペースで生活して頂いている。疲労が見られたり、眠気がある時など休んでもいただく。また、ゆっくり眠れるような環境も整備している。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 介護記録と共にお薬の説明もファイルしておりいつでも確認ができるようになっている。追加や変更があった時には日誌や薬ボックスに内容を記入しスタッフ全員が把握出来るようにしている。今年度のホーム目標は「誤薬ゼロ」とし確実な服薬介助できるよう取り組んでいる。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 洗濯物たたみやお膳拭き、カーテンの開閉など普段から役割を持つことで張り合いを持って頂いている。趣味で三味線をされたり友人に来てもらい演奏会をしたり花植えなど手伝ってもらったりしている。おやつの中には好きな飲み物を聞いて提供している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出レクで初詣や花見・外食など年に数回外出している。スタッフ数の減少や重度化により普段の外出支援は難しい時もあるが時折散歩やテラスに出て気分転換を図っている。家族にも協力していただき外出や受診介助、自宅に帰ったりされている。	
			(外部評価) 月1回、外出レクリエーションを計画し、ドライブや花見、外食等を支援している。近所を散歩したりおやつを買いに出かけたり、気候の良い時期にはテラスに出てひなたぼっこをしたりしている。	日常的にちょっと外に出て過ごせるような機会を増やせるよう、支援に工夫してみてほしい。支援の協力者を増やしたり、近くに気軽に行けるような場所を開拓する等して取り組みをすすめてほしい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本 入居者はお金を持たないことになっており立替にて対応している。外出時には立替金にて好きなものを買って物さされたりする。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) リビングに電話があり自由にやり取りできるよう支援しているが一部の方のみ利用している。手紙は今は書かれる方はいないが必要に応じ援助していきたい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 施設内で快適に過ごせるように室温・湿度などの調整をしている。季節を感じてもらえるような飾りやお花や行事の写真を飾ったりしている。入居者が見やすく理解しやすいようにトイレや居室など表示をしている。</p> <p>(外部評価) 玄関を入った所に神棚が設けてあり、通る度に手を合わせる利用者がいる。居間から中庭のテラスに出られるようになっており、ピオラを植えたプランターが配されていた。夏場にはゴーヤやトマト、キュウリを育てて料理に利用している。居間には大きな日めくりのカレンダーがあり、壁には行事の写真や季節の飾り付けをしている。訪問調査時、午前、午後にお茶の時間を設け、ことわざ遊びや今日の新聞から地域話題を話したり、体操を行っていた。トイレの入口のレールの段差は、改修して改善されていた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 廊下には二箇所長椅子、リビングには2ヶ所にソファを配置し好きな場所で過ごしてもらうことができる。車イスで介助が必要な方でも気の合う方の近くにいられるよう誘導している。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) テレビや衣紋がけ、趣味の三味線など持ち込み馴染みのものを置かれてる方もいる。昔の写真やご家族の写真、ご自分の作品など飾られている方もいる。</p> <p>(外部評価) ベッド、ダンスを備え付けている。各居室入口には、暖簾を掛けてプライバシーに配慮をしていた。窓は障子を入れており、和の雰囲気ややわらかな光が入る。テレビや馴染みのダンス、衣装ケース、衣紋掛けを持ち込んでいたりするところもあった。初詣で行った神社のお札を貼っていたり、誕生日の色紙や折り紙を飾っていたりする居室も見られた。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 居室やトイレ・浴室など表示している。大きく日付を提示したりその日のメニューを書いたりしている。フロア内は段差をなくし杖や車イス・押し車でも安全に行き来できるようにしている。</p>	